

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 0402009

政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	15 環境の保全	事業優先度	B	
単位施策	4 ごみ・し尿処理の推進	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)	
事業名	廃木材等処理事業	見直し年度		
事業期間	平成20年度～平成24年度	担当課	4 住民生活課	
事業主体	町	関係課	#N/A	
事業指標	最終処分場の延命化		#N/A	
事業目標	年間約50t排出される廃木材の埋立回避	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	2	関係例規・法令名	2 廃棄物処理法	
住民協働		関係個別計画名	1 一般廃棄物処理基本計画	

全体計画 事業内容		平成 20 年度 事業内容	平成 21 年度 事業内容	平成 22 年度 事業内容	平成 23 年度 事業内容	平成 24 年度 事業内容					
計	年間約50tの廃木材の処理委託	廃木材処理委託 50t	廃木材処理委託 50t	廃木材処理委託 50t	廃木材処理委託 50t	廃木材処理委託 50t					
計画	事業費(千円)	1,800	360	360	360	360					
事業	財源内訳										
	国庫支出金	0									
	道支出金	0									
	地方債	0									
	その他	1,800	360	360	360	360					
	一般財源	0									
実績	事業費(千円)	1,772	360	360	330	363					
事業	財源内訳										
	国庫支出金	0									
	道支出金	0									
	地方債	0									
	その他	1,772	360	360	330	359					
	一般財源	0									
関連	(特定財源の詳細等) ごみ処理手数料	【評価・実績】 (実施内容等) ・廃木材は、形成物のまま埋立処理するには、容量が多すぎるため最終処分場の延命化を図る方策として破碎処理施設を有する民間業者に処理委託 ※前年度評価結果 A—継続/現状維持	(実施内容等) ・廃木材は、形成物のまま埋立処理するには、容量が多すぎるため最終処分場の延命化を図る方策として破碎処理施設を有する民間業者に処理委託 ※前年度評価結果 A—継続/現状維持	(実施内容等) ・廃木材は、形成物のまま埋立処理するには、容量が多すぎるため最終処分場の延命化を図る方策として破碎処理施設を有する民間業者に処理委託 ※前年度評価結果 A—継続/現状維持	(実施内容等) ・廃木材は、形成物のまま埋立処理するには、容量が多すぎるため最終処分場の延命化を図る方策として破碎処理施設を有する民間業者に処理委託 ※前年度評価結果 A—継続/現状維持	(実施内容等) ・廃木材は、形成物のまま埋立処理するには、容量が多すぎるため最終処分場の延命化を図る方策として破碎処理施設を有する民間業者に処理委託 ※前年度評価結果 A—継続/現状維持					
事項	第4期総合計画関連 (継続有り)						年度目標値	処理量50t	処理量50t	処理量50t	処理量50t
	年度達成率						100%	100%	92%	101%	100%
	全体達成率						20%	40%	58%	79%	98%
	事業進捗状況						☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆

事業名 廃木材等処理事業	評価者 管理職 職氏名	住民生活課長	渡邊 孝司
	評価者 作成者 職氏名	環境衛生係長	苔米地 幸二

平成24年度実施
平成25年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民から排出される廃木材	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	廃木材の埋立回避	
【抱える課題やニーズは】	最終処分場の延命化	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	廃木材の埋立回避	① 計画内(前期)の最終処分場への埋立回避総量(t)	目標年度	平成24年度
			目標値	250 t
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	新たな経費負担(廃棄物処分場の建設)の回避	②	実績値	243 t
			達成度	97.2 %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	廃木材処理委託	廃木材の処理を委託することにより、最終処分場への埋立の回避	目標年度	年度
			目標値	
			実績値	
			達成度	#DIV/0! %

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	最終処分場の延命化を図るためには、廃木材の埋立回避は有効な手段であり、本事業は必要である。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	最終処分場への埋立は回避されており、最終処分場の延命化が図られている
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	廃木材の処理委託料は、本町の事業系ごみ処理料金と同額程度であり、コストに見合った効果が得られている
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	排出量に対し応分の手数料を負担する観点から公平である。
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
最終処分場の延命化を図るためには、埋立量の減量が必要であり、本事業は埋立量を減らす有効な手段であることから、計画通り事業を進めることが適当と判断する		



継続/現状維持		
廃木材については、形成物のまま埋立処理するには、容量が多すぎるため、最終処分場の延命化を図る方策として、現状維持が適当である。		

※展開方向の区分
 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 終了 休止 廃止